

佐倉市政・市議会だより

◆児玉正直議員 TEL/FAX.043-462-6821 佐倉市西志津4-22-38
◆萩原陽子議員 TEL/FAX.043-485-8035 佐倉市官前2-16-5

日本共産党佐倉市議団
http://www.jcp-sakura.jp/

佐倉市内の「新日本婦人の会」から
請願が出され、紹介議員五名を代表
して萩原陽子議員が内容を説明し
ました。
佐倉市は昨年、子どもの医療費助
成を四才までに引き上げ、さらに今年
から就学前までに拡充しましたが、
若い世代の経済的負担を軽減して子
育てを支援するために、また出生率の
回復にもつながるので、更なる医療費
助成の拡充が必要です。
この請願の趣旨がすべての議員に
理解され、「子どもの医療費助成年

小学校卒業までの
医療費無料化実現へ
第一歩



担当の児童青少年課は、必要経費
として、入院で二千万円、通院も含め
ると二億円、と試算しています。
市内のお母さん達の願いをくみ上げ
た、全会一致を重く受け止め、できる
だけ早急に助成拡充が実現するよう
引き続き取り組みます。

全会一致で採択！

子どもが病気になった時に、お金の心配をせずに
お医者にかかれるために
「子どもの医療費助成の拡充」請願
全会一致で採択！



福祉作業所「よもぎの園」視察
萩原陽子市議

朝日新聞報道をきっかけに▼



◎詳しくは、中ページを
ご覧ください。

市議からの
「不当な働きかけ」問題
……中原議員、朝日新聞の記事に……
「これはまさに私を指している」
と発言

行政の透明性の
更なる向上と
議員のモラルの
向上のための
契機に！

■主な議案・請願等の採択結果と各党派・議員の態度

議案Ⅱ市長提出 議員発議Ⅱ議員提出
請願・陳情Ⅱ市民提出

3月議会		結果	日本共産党	新社会党	市民	さくら会	公明党	中原氏	工藤氏
議案	1号 平成21年度一般会計予算	○	×	×	×	○	○	×	×
	11号・40号 平成20年度一般会計補正予算	○	×	×	×	○	○	×	×
請願	22号 「後期高齢者医療制度」の廃止を含む抜本的見直しを国に求める	×	○	○	○	×	×	○	○
	23号 物価上昇に見合う年金の引き上げおよび年金制度の改善を国に求める	×	○	○	○	×	×	×	○
	24号 安心して子どもを産み育てるため「子どもの医療費助成の拡充」を求める	○	○	○	○	○	○	○	○
	25号 障害者権利条約の批准を止め、条約の精神に則った国内法の整備を進めることを国に求める	○	○	○	○	○	○	×	○
	26号 地元中小業者の仕事確保に向けた支援を求める	○	○	○	×	○	×	○	○
陳情	24号 市議の「働きかけ」問題に関する陳情	○	○	○	○	○	○	×	○

■議案第1号に反対する理由

保育園待機児童対策、学校耐震化計画など、市民の願いに程遠い内容である。農業を市の基幹産業と位置づける市長の所信表明に対応した政策・財政措置がなされていない。財源不足の中、自主財源を増やす方策が「企業誘致」では納得できない。

■補正予算に反対する理由

定額給付金の支給については、不況克服の経済対策として、国民が納めた税金の一部を返還するものであるにもかかわらず、政府の人氣取りに使われ、三年後の消費税増税となつて全ての市民にツケが回されるものである。市民全体で26億5800万円に上る金額は、保育園建設や特養ホームの建設、学校の耐震化など重要施策に使うべきと、多くの市民の声が寄せられている。

支給のための事務手続き費用に、1億4580万円を要するなど、無駄の多い一過性の対策であることから反対した。

■請願・陳情に賛成

「後期高齢者医療制度」の廃止を含む抜本的見直しについては請願者の切実な願いと努力が否定され続けている。年齢で保険を区分けすることに道理はなく、医療費削減の国のもくろみが高齢者を激怒させている。

佐倉市議会はこの市民の声を受け止め、国に意見書を挙げるべきです。

3月議会		結果	日本共産党	新社会党	市民	さくら会	公明党	中原氏	工藤氏
議員発議	沖縄海兵隊のグアム移転に関わる「協定」合意の撤回を求める意見書	×	○	○	○	×	×	×	○
	安心して市民生活を送るためにセーフティネットの再構築を求める意見書	×	○	○	○	×	×	×	○
	保育制度改革に関する意見書	○	○	○	○	○	×	×	○
	ソマリア沖への海上自衛隊派兵中止を求める意見書	×	○	○	○	×	×	×	○
	「核兵器のない世界」をめざす米国の新核政策を歓迎し、日本政府に核兵器廃絶への、イニシアチブを発揮することを求める意見書	○	○	○	○	×	○	○	○
	裁判員制度の延期と抜本的見直しを求める意見書	×	○	○	○	×	×	×	×
	教員免許更新制の廃止を求める意見書	×	○	○	○	×	×	×	○
	労働者派遣法の廃止を含む抜本的見直しを求める意見書	×	○	○	○	×	×	×	○



市議からの、不当な「働きかけ」問題とは

朝日新聞で、一月十八日から三日間にわたり、佐倉市議による佐倉市職員への恫喝・威嚇・威圧・脅迫・強要などの暴力的な働きかけが報道されました。職員がおびえるような働きかけは、議員にあるまじき行為です。

佐倉市は、「佐倉市政に関して職員が受けた働きかけの取扱に関する規則」を定め、市政に関し職員が、政治家等から「働きかけ」を受けた場合、報告書を作成し、これを公文書にしています。

朝日新聞の記事は、この報告書の公開を求め、その内容や関係者と思われる人物との聞き取りを報道したものです。

開示された27件の報告書では、働きかけをおこなった議員の氏名は、黒く潰されていて、特定されていません。

関係議員は名乗り出るべき

児玉正直議員は一般質問で、まず議員の倫理として新聞報道に関わる議員は、潔く自ら名乗り出ることを求めました。

この質問を受けて午後的一般質問で、中原英雄議員は、「午前中の児玉議員の質問で、当事者と思われる者は名乗り上げることでしたので、一言申し上げておきますが、この朝日新聞の記事、あるいはそれに類する情報を総合すると、これはまさに私を指している、私はそう理解しております」と発言しました。

さらに中原議員は、報告書の一件を、原文のまま紹介し、「これは原文のままです。市幹部のところには、私は確かに行きました。(中略)

なぜこういうことをしたのかと言うことを問い詰めたことは事実であります。」と述べ、少なくともこの件の働きかけの当事者は、

水は余っている！

ハツ場ダム必要の根拠は総くずれ



志津浄水場を見学する
児玉正直市議と住民

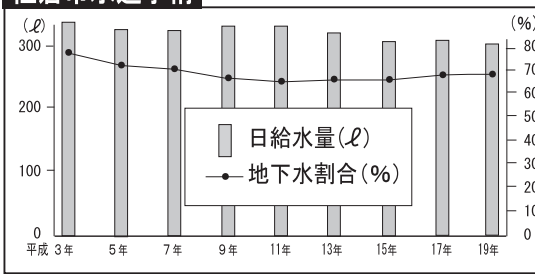
「二十年前はもったいなかった」と言われますが、佐倉の水道水は美味しいと思います。比率が減りつつありますが佐倉市の水道水の68%は地下水です。この地下水を、「南アルプスのミネラルウォーターと同じ」と、佐倉市水道部の職員は、自負しています。

「佐倉の水道料金は高い」と言われる方もありますが、千葉県内46自治体中、佐倉市の水道料金は、安いほうから10番目です。水道料金でも、地下水の恩恵を受けています。

佐倉の地下水利用は暫定的

地下水混合の佐倉の水道水を、これからも飲み続けられるために大きな課題はハツ場ダムです。昭和50年代、経済成長が至上命題で、工業用水の必要や人口が急増

佐倉市水道事情 1人当たりの給水量と地下水割合



したため、地下水のくみ上げが激しく、そのため地盤沈下が顕著になりました。対策として利根川や印旛沼の利水が進んだのもこのためです。

中原議員であることを認めました。

新聞報道後も報告書の訂正を求める働きかけ

中原議員がこのような発言をしたとしても、議員からの不当な働きかけの報告書の全てにわたり、議員の名前が明確に特定されたわけではありません。

さらに一連の新聞報道後に働きかけの報告書が三件あることが分かり、これを情報開示させたところ報告書の訂正を求めるものであり、こども議員の氏名は黒く塗られていました。

市議会としての決議文

佐倉市議会は、「議員の政治倫理に関する決議」に中原議員を除く全員が賛成しました。

決議文では、「当該報道内容が事実であるとするならば、市民の信頼を著しくそねかねない由々しき問題であり、行政側の責任において事実関係並びに氏名の公表、告発等

の法的措置を講じ、さらに当該規則のより実効性を高めるために所要の見直しを強く求める。

佐倉市議会としても、関係する議員に対して猛省を促すとともに、このような事態を二度と生じさせないために特別委員会において議員の政治倫理条例を含めた議会基本条例の制定に向け取り組むこととする。」としています。

今後の議会と市の課題

日本共産党市議団は、道路補修や生活保護等の市民の要望を受け、市に働きかけます。働きかけそのものは悪いことではなく、議員の仕事でもあります。しかし、職員が恐怖を感じたり、適切な行政運営をねじ曲げる働きかけは、させない、許さない対策が必要です。

佐倉市で、働きかけをする議員名を公表できない要因を取り除き、行政の透明性の更なる向上と議員のモラルの向上のために、日本共産党佐倉市議団は力を尽してまいります。

今やハツ場ダム建設と地下水規制の根拠がなくなっているのです。

ダム建設の負担と水道料金の値上げ

ハツ場ダム建設に佐倉市はすでに5億1千万円を拠出しています。ハツ場ダムの本体建設に今後少なくとも1億2千万円出さなくてはなりませんし、工期の延長で、さらに増える可能性が大了。

ハツ場ダムができて井戸水が使えなくなると、佐倉市の水道料金が、現在の2倍になります。

美味しい水の享受は権利

佐倉市の住民は、もともと、もともと、佐倉の美味しい水を守れ、守りたい！という声を上げて良いのではないのでしょうか。

日本共産党佐倉市議団は、美味しく、安全で、しかも安い水を飲み続けることが出来るよう、ハツ場ダム建設中止とともに、県条例の見直しを求めています。

当時の計画は、佐倉市給水人口20万人、一日当たりの給水量を8万9千立方メートルとしました。現在、佐倉市の給水人口は16万5千人。一日当たりの給水量は5万立方メートルで、当初計画の56%しか、水道水は使われていません。市民の節水努力が大きく昭和50年代は、一人当たり一日445ℓとしていたのに、今日では、303ℓです。しかも工業用水としての需要が減り、佐倉市でも工業用水戸が一部停止しています。そして地盤沈下は、沈静化しています。